

平成23年度予算 未来まちづくり推進枠予算要求一覧

(単位:千円)

建設局 予算要求の内容			
事業名	事業概要	要求額	所管課 電話番号
石畳舗装維持補修	風情を感じさせる趣のある石畳舗装が、車両通行等の影響から著しく損傷しており、通行に危険があるとともに、点在する補修跡が著しく景観を損ねていることから、これらの石畳舗装を修繕し、通行者の安心・安全を確保するとともに、京都らしい景観を保全し、観光都市京都の発展に寄与するものである。	93,000	土木管理部 調整管理課 222-3568
京都御苑周辺道路の歩行空間改善事業	今出川通、烏丸通、丸太町通の京都御苑側の歩道については、歩行者と自転車との接触事故や御苑側水路への転落事故の危険性が高く、特に烏丸今出川のバス停では、バス待ちの人と通行する人が輻輳しており、改善が求められている。 このような状況を改善するため、転落防止柵の設置やバス停、横断歩道部におけるデッキ等の設置を行うものである。 また、使用部材については、当該区間が京都御苑に隣接するため、環境・景観に配慮した、間伐材を利用する。	3,500	土木管理部 調整管理課 222-3568
LED道路照明灯の試験設置	本市では、水銀灯や蛍光灯など約80,000基の道路照明灯を管理しており、道路照明灯の維持管理に年間約8億円の経費が掛かっており、その中で、低炭素社会の実現や維持管理経費の削減のため、水銀灯については平成20年度から新設・更新時に省エネ・低炭素化が見込めるセラミックメタルハライド灯を導入している。 これに続き、更なる低炭素社会の実現や経費削減を目指し、蛍光灯においてもLED照明灯の導入に向け、試験設置を実施する。 また、LED照明については、蛍光灯のような統一的な規格が存在せず、各メーカーによって基本性能や形状等に差異があるため、試験施行の際には、各メーカーから技術提案を受け、LED照明の性能確認や明るさ、見やすさ等の機能的な検証を行うとともに、本格導入する際の予定価格の設定やライフサイクルコスト等の経費面も含め検証を行う。	1,200	土木管理部 調整管理課 222-3568
京都市公共物GISシステムデータ移行 (職員提案予算)	京都市公共物GISシステムに京北分室管内システムデータが移行されておらず、京都市全域の情報がイントラネットパソコンにおいて閲覧出来ない状況である。 また、道路明示課及び土木事務所等で、市民の方が閲覧できるタッチパネルにおいても、京北分室管内のデータが閲覧出来ない状態であり、市民サービス及び作業効率の低下を招いている。 上記を改善するため、京北分室管内システムデータを京都市公共物GISシステムへ移行し、京都市全域の情報がイントラネットパソコン及びタッチパネルから閲覧出来るようにすることで、市民サービス及び作業効率の向上を図る。	20,000	土木管理部 調整管理課 222-3568
認定路線網図提供システムの構築 (職員提案予算)	認定道路であるか否かについての情報は、重要な取引きの際に使用されるケースもあるため、電話による問い合わせには原則応じておらず、道路明示課又は各土木事務所の窓口での調査を個々にお願ひしており、市民の方に負担をかけている状況である。 上記の課題を改善するため、認定路線網図提供システムを構築し、ホームページ上に公開することにより、市民の方の利便性の向上を図る。	4,500	土木管理部 道路明示課 222-3566
放置自転車対策の強化及び充実	【撤去自転車保管所の整備及び日・祝日の開所】 府市協調の取組の一環として、京都府から無償で提供を受けた「くいな橋保管所」を拡張整備することにより、撤去自転車の保管所機能の増強を図る。 また、これまで、撤去自転車の返還については、各保管所において、月曜日から土曜日に実施してきたが、平成23年度からは、日・祝日も開所し返還業務を行うことにより、更なる市民サービスと返還率の向上を図る。 【撤去警告看板リニューアル】 撤去警告看板に対しては、これまでから、色合いやデザインなど景観へ配慮したものにしてほしいという要望が寄せられていた。 一方、京都市未来まちづくり100人委員会の1部会である「京都景観フォーラム」では、景観に配慮した放置自転車の警告看板のデザインについて、議論されており、この度、公募を行い、フォーラムとしての意見をとりまとめたうえで、本市に対して提案がなされたため、この提案を基本として、撤去警告看板のリニューアルを実施するものである。 景観行政を重要な施策として位置づけている本市において、観光看板のみならず、規制看板である撤去警告看板についても景観への配慮といった観点を取り入れることにより、美しい街並みを保持するとともに、今後の自転車施策の更なる発展につなげていきたい。	113,500	土木管理部 自転車政策課 222-3565
無電柱化事業	愛宕山の頂にある愛宕神社の門前町として賑わった昔の町並みを残し、化野念仏寺や五山の送り火の一つである鳥居形を有する嵯峨鳥居本伝統的建造物群保存地区を東西に横断する京都日吉美山線(愛宕街道)の無電柱化を始め、京都市内屈指の観光地である嵯峨嵐山の渡月橋南詰めに位置する宇多野嵐山山田線(渡月橋南詰)、表千家不審庵、裏千家今日庵を有し、日本の茶道文化の中心ともいうべき、上京小川歴史的景観保全修景地区に含まれる油小路通(小川通)など、京都市内の歴史的、自然的景観上重要な各路線において、電線共同溝の整備により、景観の保全や快適な通行の妨げになっている電柱や架空電線類を取り除き、無電柱化事業を推進する。	28,000	道路建設部 道路環境整備課 222-3570

(単位：千円)

建設局 予算要求の内容			
事業名	事業概要	要求額	所管課 電話番号
梅小路公園の再整備	梅小路公園は、平成7年に開園した緑豊かなオープンスペースとして市民に親しまれている公園である。民間事業者から平成20年には水族館、平成21年には鉄道博物館の公園施設新設の提案をそれぞれ受け、京都市では、平成21年6月に「梅小路公園の再整備の方向性(案)」として、3つの基本理念(「地域活性化の核」となる賑わい・交流の場の創出、多様な「いのちの輝き・つながり」を学ぶ都心のオアシスの充実、京都市を代表する「文化」を継承・発展する拠点の創出)と6つの基本方針を定めた。 平成23年度は、再整備の一環として、防災機能の向上のため、防災トイレ(マンホールトイレ)の整備及び放送施設の充実を図る。	39,716	水と緑環境部 緑政課 222-3589
緑視環境向上プロジェクト ～新・緑の基本計画推進～	平成22年3月に策定した緑の基本計画を推進するため、平成23年度については、「緑視環境の向上」を重点テーマに下記事業を実施する。 桜景観創造プロジェクト 紅葉街路樹二段階剪定 都市緑化事業(街路樹整備～道路の森づくり～) 公共施設のグリーンベルト作戦 公園緑地の植栽充実プロジェクト まちなかスポットガーデン事業	128,310	水と緑環境部 緑政課 222-3589
岡崎地域活性化推進事業 【公園区域拡張】	平成22年度策定予定の岡崎地域活性化ビジョンに基づき、琵琶湖疏水慶流橋以西の区域を拡張するための測量を行い、岡崎公園の修景機能を充実し、新たな緑の基本計画に掲げた「拠点となる緑」としての役割を充実させることを目指す。	7,600	水と緑環境部 緑政課 222-3589
新十条相深公園整備	本市では「京都市緑の基本計画」に目標として掲げる1人当たり公園面積10㎡を目指し、様々な公園の整備に取り組んでいる。 その中で、街区公園は、市民にとってもっとも身近な公園であり、地域コミュニティの核となる重要な施設である。そのため、本市では、公園が不足し、地元からの設置要望も強い地域を中心に公園の新設整備に取り組んでいる。 「京都市緑の基本計画」に目標として掲げる1人当たり公園面積10㎡を目指し、23年度は新十条相深公園の新設整備に取り組む。	432,029	水と緑環境部 緑政課 222-3589
淀城跡公園拡張整備	昭和43年に開園した淀城跡公園は、淀地域のほぼ中央に位置し、京阪本線の立体交差化に伴う淀駅の移転や駅周辺整備等の関連事業が進められる中で、地域住民からは公園の再整備が地域活性化の一役を担うものとして期待され、平成13年1月に「淀城跡公園再整備基本構想及び基本計画」を策定し、都市計画決定を行った。 しかしながら、直後の本市の財政非常事態宣言を受け、事実上、事業が休止状態にある。 淀駅周辺整備事業が平成25年度に完了すること、また、用地買収予定面積の9割に相当する地権者の方々から買収要望の声が寄せられていることから、地元での公園再整備への期待が高まってきている。ただし、当初の計画規模では多額の事業費を要するため、事業化に当たっては、事業費を圧縮する必要がある。 このため、23年度に基本計画の見直しを行う。	3,000	水と緑環境部 緑政課 222-3589
宝が池公園スポーツ広場整備	当広場は、昭和62年に完成した球技場をはじめ、テニスコートやフットサル場を備えたスポーツ広場として、多くの市民に利用されている。 開園当初には、公園の中を都市計画道路が横断する都市計画決定がなされており、そのための用地先行買収が進んでいたが、平成15年3月に道路のルート変更がなされ、道路は公園内を横断することなく、公園の外側に整備された。 これにより、当初の道路ルート用地が未整備のまま、公園内を分断しており、公園としての一体利用ができない状態になっている。 そのため、球技場の南側にある広場の拡張、周回園路の整備等を行い、公園の一体利用を図る。 23年度は、用地の買戻し及び測量・実施設計を行う。	282,842	水と緑環境部 緑政課 222-3589
高瀬川再生プロジェクト	現在、石積護岸のいたるところで損傷や老朽化に伴う漏水が発生しており、夏季においては干上がりによって悪臭を発生させる等の問題が生じている。 そこで、漏水防止及び護岸の崩壊など災害の発生を予防するため、目視調査により著しい損傷等を確認することができる取水口～五条までの間を、第一期補修工事として実施する。	15,000	水と緑環境部 河川整備課 222-3591
建設局 合計		1,172,197	